

Greenthumb

Who is Greenthumb???? 2

心のビタミン・INTERVIEW 三浦 絹子 3

自分仕立てのいい味いい暮らしの交流会

世にも珍しい成功法則 4

～表現力の魔法～

感動プロデューサー／平野秀典

グリーンサム・レポート 8

私の味じまん お楽しみパーティー／

第1回 華宵展／Xmas手作り教室

TOPICS 10

・グリーンマネージメントプロジェクト

中央公園／菅原悦子

・むつみ造園営業所紹介

・「金花茶」／大湯村生態系公園観賞温室

・Hirata押花教室第7回生徒合同作品展

MUTSUMI COLLECTION

プロの道具 12

2004年
初春号



花やみどりは地球をデザインしている

Who is Greenthumb???

花と緑を愛し、人と人との出逢いを求めて
(/花と緑に囲まれて過ごす、とっておきの時間。)

不思議なゆびでいろいろなものに触れ、花と緑をいっぱいにして人々の心をなごませた、その少年のように花と緑の好きな人を総称してグリーンサムと呼んでいます。

花や緑の楽しみ方は人それぞれ違うものですが、いかに大切であるものなのか…今さら言うまでもないでしょう。今までの花や緑を買ってきて鑑賞する、見るだけの楽しみ方から自分で触れ、育て創っていく楽しみ方に変わりつつあります。

グリーンサムクラブは、花と緑を多くの人たちと共有してこころというネットワークです。エクステリア・ガーデン業界に携わる、街並みづくりの経験豊かなスタッフをはじめ、街を花や緑でいっぱいにして心豊かに過ごしたいという共通の想いを持った団体・個人の集まりです。忙しい毎日に流されてしまいがちな私たち。ふと立ち止まって花や緑にふれあったり、花や緑に囲まれながら人と人の交流をしたり、楽しい時間をつくっていききたいと想います。

自宅の庭先から街角に、公園へと私たちの身近な自然から、いずれは地域全体が「グリーンサム」でいっぱいになれば…と願っています。

秋田グリーンサム憲章

私たちは
花と緑の生活を楽しむ人々が集い、
交友を通して、友情と信頼を深め
真の豊かな、質の高い暮らしを希求します。

私たちは
秋田が花の鮮やかな色彩や、
木々の多彩な緑が実感できる、
品格ある地域社会づくりに努めます。

私たちは
秋田の自然のすばらしさを守り育み、
自然と人間が共生する、
環境創造と世界平和に貢献します。

秋田グリーンサム倶楽部

秋田市川尻御休町4-27 TEL 018-866-5536
あとリエグリーンサム TEL 018-878-3986

パン作りから広がった 美味しい笑顔に囲まれて

天王町◎三浦 絹子



三浦さんのレパートリーはパンとお菓子の両方で200種はくだらない。パンもお菓子もひとつひとつに歴史があっておもしろいと言う。「名前を覚えるのが大変だけどね(笑)。」

◎心のビタミン



三浦さんの最新レシピの「米粉の食パン」。ゴマの香ばしさとお米の甘味が楽しめる。



砂糖を使わずにニンジンとはちみつで作ったキャロットブレッドは素材のうま味を突感できる。



表面はクッキー生地のカリカリ、ひとくちほおばると中はしっとりとした生地。おいしさが口いっぱい広がる。



自宅で開催されている教室では1回にパン2種とお楽しみメニュー(お菓子)が講習される。このお菓子も生徒さんには好評を得ている。

本日のパン/
キャロットブレッド・クーゲルホフ・メロンパン・クラシックショコラ・米粉の食パン・ボレリアー・惣菜パン・カントリーフェア・編みパン

玄関に入った瞬間、焼き立てのパンの香りに包まれた。この幸せな空間に笑顔で迎えてくれた三浦絹子さん。テーブルの上にはヘルシーなキャロットブレッド、ドイツのお菓子クーゲルホフ、ミルクたっぷりのカントリーフェア、スペインの発酵菓子ボレリアー、米粉を使った食パン…愛情込めて焼き上げられたパンの数々。「皆さんに食べてもらおうと思って、昨日から焼いてたんですよ(笑)」。あたたかい言葉に、その場にいたみんなが微笑む。

パン作りの講師の資格を持つ三浦さんは現在自宅で開催している教室や「あとリエグリーンサム」での教室の他、若美町にあるデイサービスセンターで手作りお菓子教室をボランティアで開催するなど幅広く活躍されている。

「昔からパンが大好きでした。でも本格的に作りだしたのは結婚してからかな。やっぱり家族に添加物とか入っていない、安全で美味しい手作りパンを食べてもらいたかったから…」

パン作りを始めた当初は教室に通い、基礎から徐々に覚えていった三浦さん。実は今でも仙台まで月に1回講習を受けに行っている。生徒さんもどんどん上級者になってきているので、もっと勉強したいという気持ちがある。



INTERVIEW



「三浦 絹子 (Kinuko Mura) 手作りパンとお菓子教室 / お問い合わせ先: 電話018-673-2776

「素晴らしい先生と出会ったので講習も楽しいですよ。パン作りを続けているのは、いろんな方と出会うからかもしれませんね。」

パン作りを通していろんな年代の方との交流が広がっている。パンを作っている時はもちろん生徒さん達と焼き立てをいただく時間は本当に楽しいと三浦さんは言う。

「パン作りは難しいと思う方も多いのですが、きちんとプロセスを踏むと案外簡単なんです。楽しいですよ、一緒にどうですか?」

もともとパン作りを広めたいという三浦さん。この春には講師の上の資格、教師の資格の取得に挑戦するという。この気持ち三浦さんがファンを引き付ける魅力なのだろう。

2003年12月15日、むつみボタニカルセンターにて、感動プロデューサーの平野秀典氏を招き、講演して頂いた内容の一部をご紹介します。

世にも珍しい成功法則 ～表現力の魔法～

感動プロデューサー 平野秀典氏

平野秀典 (Hidenori Hirano)

◎1956年福島県生まれ、立教大学卒。感動プロデューサー。東証一部上場企業に勤める会社員と演劇の俳優の2つの顔を持つ。演劇で培った「表現力」とマーケティングを融合させた新しいアプローチ「ドラマティックマーケティング」を開発。得意先から頼まれて、年間200回行なわれている門外不出のセミナーを、最近一般公開したところ、大絶賛を浴びる。

◎推定300億の価値を生み出したと言われるその実践手法は、小手先のノウハウではなく、「感動の本質」を理解した上で、「感動を設計する」という従来にないやり方である。演劇の公演がそのままセミナーの形になったような2時間は、あっという間に過ぎる魔法の時間と言われている。

◎「最近感動が少ないと嘆く前に、何をやりたいのか分からないと悩む前に、あなたが感動を巻き起こす渦の中心になってみませんか」を合言葉に、世界中の人の心に感動を届けようというプロジェクトを呼びかけている。

その受け皿として、会員同士で実践事例をわかちあいながら、感動設計手法を進化させていく「100万人感動倶楽部」を組織する。

100万人感動倶楽部ホームページ

<http://www.kandou-gift.com>



皆さん、最近「感動」ってありましたか？

私は「感動」っていいんだよねって伝えているだけなんです。これが何故か全国のたくさんの方に「そうだよね」って言っていただきまして、年間2000回ほど講演させていただいております。今の時代、どうして感動がこんなに受けるんだろうと感じていただければよろしいかと思えます。皆さん「感動」ってこの1週間に何回くらいありましたか？1ヶ月くらい戻りましょうか？ちよつと厳しいという方は半年くらい戻りますか(笑)。いかがですか？なんでか知らないですが、どんどん感動が減ってるんですよ。殺人とか通り魔とかテレビをつけると嫌な感情にはいくらでもなれますけどもね。ただ、本当に少ないんですよ。感動って、でもなんとなく感動がないわよねって簡単に終わっちゃってますけど。私なんか役者やってましたから、真剣に感動を生み出してたんです。わかりますでしょうか？感動を生み出すっていうか感動を設計していったんです。

私の会社が潰れる直前の状態になってしまった時「よし、俺の力で全社の売上げ上げてやる」って思ってたんです。その時心配してたんです、会社で感動っていう言葉を聞かなかつたんです。みんな顧客満足って言ってたんです。みんな最高のサービス、親切、気配りします。その結果どうなるか。お客さんがどんどんワガママになって、どんどん利益が減ってます。それであまりいい商品が生まれなくなってきました。会社はいい商品が生まれないと利益を生み出せませんから。顧客満足ってなんだろう？簡単だったんですよ。

期待⇌実感⇓満足

お金を払って何かを買う時、皆さん必ず「期待」しますよね。ところが実際買ってから「実感」っていろいろありますよね。これがイコールになった時に「満足」になる、当たり前ですよ。これがこれ

まで顧客満足です。

皆さんに期待を上回る実感を提供したい、私やったのこれなんです。演劇関係者とかエンターテインメント業界、この不況の中、元気に商売してる人達はみんなやってます。そうしますとお客さまからこういう言葉がでてくるんです。

期待⇌実感⇓感動

「感動」、これです。私は毎日「これ考えてます。お客さんにどうしたら感動してもらえるんだろう。これがもつと、実感が期待を上回った場合。感動の上って何だかご存じですか？「感激」ですね。劇的な感動。ヒテキ感激の感激です。(笑)まだ上がありますけど…。こんな気持ちになりませんか？「感謝」。売ってくれてありがとう。これが欧米に行きますと「熱狂」っていうレベルになります。これだけ感情のレベルってあるんですよ。

今の時代、普通に暮らしていればまあまあ満足になりますよね。でもこの先こんな世界があるんです。だから仕事だけじゃなく日常にもすごく重要だなんて思います。私のテーマは「感動」なんです。感動っていうテーマを正面から取りあげた人ってまだあまりいないんですよ。こんなに大事なことを何で学校で教えないのかなって思ったんです。感動の作り方の授業ってないですよ。会社の会議でもないですよ、感動作り方、売り方の会議やろうって。どうしてこんな大事なお話をみんなやらないのかな。実は感動を売ってる会社ってめちゃくちゃ儲かっている会社ばかりなんです。一番有名なのは東京デイズニールランドです。感動が商品なんです。私、おもしろい話を聞いたんですよ。



「デイズニールランドは魔法の国」感動が感動を生む。

あるお客さんがデイズニールランド遊びに行くと、大事な大事な記念の指輪をアトラクションの最中に池の中に落としたりしちゃったらしいんです。すぐ係員に言ったみたいなんですけど、さすがにどうしようもないですよ。係員も困ってしまつて責任者に相談に行つたそうです。そしたら責任者がひとこと「対処します」。そのまま園内遊んでください。後でお呼び出しさせていただきます。さて、問題です。何をしたらと思います？電話したそうです。ダイバーを何人も呼んだそうです。潜らしたそうです、その池の中に。見つかったそうです。で、お客さんをお呼びだして、さっきの係員から渡させたそうです。どうやって見つけたのかは言わずに。お客さんはビックリしたでしょうね。え？嬉しいんですけどどうやって見つけたんですか？担当者はひとことだけ言つたそうです。「ここは魔法の国ですから」。

係員は言いたかつたと思いますよ、ダイバーにこだけお金がかかつて…(笑)私なんか言つちゃいそうですけどね。「感動」売ってるんですね。そのお客さんまた来るでしょうね。人にしゃべるでしょうね、私しゃべってますから。これを世間では口コミって言うんです、なにも仕掛けもいらない。こういう商売が儲かっていくと、いい世の中になると私思うんですが、いかがでしょうか。

こんな話年間2000回くらいしゃべってますと1万人くらいにしゃべってますね。そうするとみんなそういう商売やりたいなって思ってるんですよ。私の講演聞いてくださった方は、経営者の方とか第一線のバリバリの営業マンです。みんな言うんですね、「人にモノだけじゃなくてこういうの売りたいんだよ、本当は。デイズニールランドみたいに感動してくれるような仕事、俺やりたいんだよね。」って。

「やっぱり、これなんだよー」

私は演劇のやり方を仕事に入れたらうまくいっちゃつたんで、それでこういう講演会をやるようになったんですけど、自分の日常はどうなってるんだ、っていう話になってくるんですね。やっぱりこれなんです。感動。日常ってまあまあ満足か不満足の行き来なんです。自分のなかでこの壁を突破できたのは、ある演劇関係者から言われたひとことだったんですよ。

「平野さん、お客さんの記憶に残る仕事してる？」って言われたんです。これは効きましたね。記録にこだわってたんです。いきなり記憶に残る仕事って言われまして、自分の仕事のレベルってお客さんの記憶にどこまで残ってるんだろう…って思ってから、いきなり基準が上がつちやつたんです。自分がどんどんレベルアップしたさっきのひとことでした。私はそれから今日もそうなんですけど、私の話を皆様が1週間後とか1ヶ月後とかにまだ覚えていてくれるようなお話に、心を込めてしゃべれるようになりました。

ある男がつくった音楽。今でも感動できるんですよ。

実はそれを知ってくれた方が、350年くらい先の人に覚えてもらえたらそれを偉業っていうんだよね、って言われまして、そんな作品をつくらうって言われました。その人が言つた350年後っていう基準は今から350年前にそういう仕事をやった男がいたんですよ。今我々その男がやった仕事をきくと感動できるんですよ。まだ。仕事っていうのは実は音楽なんです。日本では江戸時代初期くらいに、ある男がつくった音楽があるんです。持つてきてますので聴いてみてください。たぶん皆様聴いたことあると思います。(音楽スタート)日本じゃなくてドイツで生まれた男です。聴いたことありますか？